

## 槍ヶ岳 北鎌尾根

日程:2008年12月27(日)~1月1日  
(木)

メンバー:L 菊池、伊藤、白土(記)

槍ヶ岳の北鎌尾根は登山者に最も知られているルートのひとつであり、槍の穂先へとつながるスカイラインを見るたびにその美しさに登山意欲をかき立てられる。私は秋と春にトレースしたことがあるが、登山経験を積むにしたがいやはり厳冬期にもチャレンジしたいという気持ちが増していた。先シーズンの正月休みにも計画を立てたが、荒天のためやむなく蝶ヶ岳へ転進した。そして今シーズンもトレーニングを積み、モチベーションを上げて意気込んでいたが、またしても天気に恵まれなかった。出発前にメンバーで相談し、行けるところまで行ってみようと思入山した。予想通り天気は悪く途中で引き返してきたが、厳冬期の北鎌尾根を経験でき、堪能できた。

行程:

12/27(土) 葛温泉 5:50~6:30 七倉 6:50~8:25 高瀬ダム 8:40~11:15 名無小屋 ~13:20 湯俣(冬季小屋泊)

12/28(日) 湯俣 6:30~9:05 中東沢 ~13:55 千天出合 ~15:40 P2 取り付け

12/29(月) P2 取り付け 6:30~10:50 P2 基部 ~15:25 P3

12/30(日) P3 下 7:00~8:25 P4 8:50~10:25 P3 下 11:30~13:30 P2 基部 ~15:55 P2 取り付け

12/31(月) P2 取り付け 7:15~8:20 千天出合

~13:30 湯俣 ~15:20 名無小屋

1/1(火)名無小屋 7:15~9:15 高瀬ダム 9:35 ~11:35 葛温泉

1/25000 地形図:烏帽子岳、槍ヶ岳

12/27(土)

夜行列車のムーンライト信州に乗り、5:08に信濃大町に到着。すでに電車内で準備を整えてあり、予約したタクシーに乗り込む。駅では遭対指導員の方が待機しており、計画書提出と最近の天候などの情報をもらう。葛温泉高瀬館の先にあるゲート前でタクシーを降りたとき、遭対の人が来てゲートを開け七倉まで車で登って行った。まだ暗い中ヘッドランプをつけて歩き始める。雪が降っている。トレースのない林道を黙々と歩く。七倉では先ほどの指



七倉の先のトンネル



高瀬ダムに向かう

導員の方が詰所で待っていた。ストーブに当たりながらいろいろと情報をもろう。ここ3日間では入山者はゼロとのことだ。正月休みでは我々が一番乗りだ。また林道を黙々と歩く。途中で2人パーティーに抜かれた。硫黄尾根に行くらしい。歩くのも速くツワモノっぽい雰囲気だ。高瀬ダムのジグザグ道もひたすら登る。バックウォーター沿いの道もラッセルするほどではない。夜行列車では睡眠をとるよう努めたがかなりの寝不足。単調な道を寝ながら歩いている有り様だ。途中の休憩時には熟睡してしまった。名無小屋には誰もいなく、薪はあるがストーブが壊れていて使えそうにない。湯俣の晴嵐荘が近づいてくる頃には晴天となった。この日は晴嵐荘の冬季小屋を使わせてもらうことにした。本館の裏に物置の様な建物ではあるが、中にテントを張れたので快適だ。露天風呂の様子を見てみると温かい。ちょうどいい温度で、束の間のひとときを3人で足湯を楽しんだ。



晴嵐荘への吊橋



吊橋にある看板



湯俣温泉

12/28(日)

湯俣先の取水ダムを越えて、吊橋を渡る。ここからいよいよ水俣川に入り、渡渉エリアが始まる。しばらくは左岸沿いを巻き気味に進む。途中まで硫黄尾根パーティーのトレースがあった。沢の流れに行く手をはばまれ、いよいよ渡渉だ。ルートを選べば飛び石伝いに渡れそうだ。3人ともプラブーツなので多少くらい濡れても大丈夫だし、瞬間的なら浸かっても中までは濡れない。残置ロープでへつるところもある。千天出合まで6回ほど渡渉したが、すべて飛び石伝いに渡った。しかし、伊藤君と菊池さんは滑ってしまい、かなり濡れてしまった。幸いにも私は濡れずに済んだ。千天出合から右岸をラッセルしながら進むが、深いとこ



るで腰ラッセルだ。P2 取付点に渡るため最後の渡渉だ。流れが深いので秘密兵器を取り出す。事前に試行錯誤を重ねた結果、ビニール袋をプラブーツの上から履くのがベストであるという結論に至った。厚手のビニール袋の底をガムテープで補強した。これを2枚用意し、片足ずつ履く。これなら靴を脱いだり履いたりする手間がかからず、何といっても冷たくない。この作戦は成功した。左岸に渡ったところに平らな場所があり、ここで幕営する。夜になって2人組のパーティーが到着した。トレースのお礼を言われる。トレースがなければ暗い中ここまで来ることは難しい。岡山から来たということだが、遠路はるばる来るからには槍まで抜けるつもりだろうか。



硫黄尾根末端の吊橋



水俣川をラッセルして進む



飛石伝いに渡渉する

12/29(月)

暗い中出発する。天気は良く、風もない。すぐにP2へ向かう尾根に取り付くが、のっけから急斜面。先頭を交代してラッセルしながら高度を上げる。斜度が増えてきて岩も出てきたのでロープを出す。菊池さんがリードし、伊藤君はユマール登高、白土がラスト。後続パーティーも追いついた。この上でもロープを2ピッチ出した。斜度があるのでダブルアックスで登る。そのあとの雪壁は長く斜度もあるがノーザイルで、ダブルアックスで登った。P3付近のコルにテントが張れそうなので、今日はここまでとする。明日はテントを張ったまま、行けるところまで行って引き返すことにした。岡山パーティーはさらに先へ進んでいった。



P2への登りの雪壁



P4 付近のコルで幕営



P4 へ向かう

12/30(火)

今日はテントを張ったままの行動なのでザックが軽い。歩き始めるとすぐ上に岡山パーティーがテントを張っていた。彼等はここから下山するらしい。斜度があるところはザイルを出す。曇っているが風はない。途中で、硫黄尾根を見てみるとかすかに登る2人組を見つることができた。彼等は抜けるつもりであろう。P4まで登ったところで引き返すことにする。その向こうにはP5が吹雪の向こうに見える。3人で握手をし、記念撮影をしてから下る。何度か懸垂下降をしてテントに戻る。天気が悪化している。早々に撤収して下山を開始する。樹林帯は風がしのげる。懸垂下降を10回くらいして2日前に幕営したP2取付に戻った。いい時間なので今日もここで泊まることにする。岡山パーティーがすでにテントを張っていた。



P4で記念撮影



懸垂下降で下る

12/31(水)

今日も渡渉が待っている。来る時に渡ったところを忠実にたどる。帰りは全て靴を履いたまま飛び石伝いに渡れた。3人とももう濡れることはなかった。重いザックを背負って素早く機敏に渡らなくてはいけなかったので、結構パワーを使う。予想に反して天気は良かった。この日

は名無小屋に泊まった。畳の部屋にツエルトを張ると温かい。冬季小屋はこれに限る。近くに沢があるので水も取れる。今回雪で水を作ったのはP3での1泊だけだった。岡山パーティーも到着した。ラッセルのお礼に焼豚をいただいた。久々の肉なのでとてもうれしかった。お互いの会の話などをして親睦が深まった。食料も行動食もたくさんあるので、やけ食いした。



さらば北鎌尾根、また会う日まで

1/1(木)

あけましておめでとう。今年も山で年越した。元旦早々寂しいが棒ラーメンを食べて出発する。我々のトレースしかなく、年末年始で入山したのはやはり3パーティーだけのようだ。天気はあまり悪くなってない。名無小屋からの道はほとんど高低差がないが、やはり下山は楽だ。高瀬ダムからは唐沢幕岩がよく見えた。やっと葛温泉に到着。無事に下山できました。3人で握手。早速高瀬館の温泉で暖まった。



5 泊目の宿、名無小屋

[主な共同装備]

8.5mm × 50m ロープ1本、2-3人用エスペース  
冬季外張1張、ツエルト1張、ガソリンストーブ(スノーピークギガパワー)1台、ホワイトガソリン3.6L、ガスヘッド1台、ガスカートリッジ小2個、トランシーバ1台、ラジオ1台、天気図9枚、コッヘル中小各1個、

[食糧(朝夕3食×9日分)]

アルファ米27食、棒ラーメン27食、スープ類54食、ジフーズ等おかず27食、他

[行動食]

各自9日分



信濃大町駅に到着